

ちびっこ探偵 ゴミバスターズ

～少量排出事業者制度改正編～

少量排出事業者制度とは、1回のごみ排出量（一般廃棄物に限る）10kg以下の事業者が、事前に市に届け出を行うことで、地域の集積所にごみを出せる制度です。平成29年市議会11月定例会で制度改定に係る条例案が議決されました。

現在の少量排出事業者制度では…

少量排出事業者は、一般家庭と同様に家庭用のごみ袋で地域の集積所にごみを出すことができます。

何が変わるの？

- ①平成30年4月から届出書の様式が変更となり、自治会長や町内会長の承諾書やごみ集積所の位置図の添付が必要になります。
 - ②平成30年10月からごみ処理費用の納付と、その際に交付される**事業者用指定ごみ袋**の使用が必要になります。
- ※一般家庭のごみの出し方は変わりません



▲事業者用指定ごみ袋イメージ



説明会にご参加ください

改正内容や改正後のごみの出し方、届け出方法などの説明会を行います。日程は広報みしま2月15日号などでお知らせします。



▲第19号ごみ減量トレンドイ
(広報みしま1月11月号挟み込み)

企画展「挿絵で見る江川太郎左衛門英龍」は、
2月12日（月・振休）まで開催

歴史の小箱

No.357

幻に終わった

明治時代の工場設立計画

今年には明治維新百五十年の記念の年にあたり、郷土資料館では幕末・明治をテーマにした企画展を準備しています。今回は、現在調査中のテーマを少しご紹介

を紹介します。プラスチックが開発される前、子どものおもちゃや文房具、小物など、あらゆる製品に使われたセルロイドという素材。明治時代に初めてセルロイド素材が輸入され、珊瑚やべつ甲などの代替品として重宝されました。当初、セルロイドはすべて輸入品でしたが、原料には日本でも採れる樟脳が使われていた

ため国内での製造も試みられましたが、大規模生産には至りませんでした。



▲セルロイド製の人形

せんでした。

明治二十七年（一八九四年）の日清戦争の結果、日本が領有した台湾でも多くの樟脳が採れたため、これらを使ってセルロイドの製造、輸出を目指す動きが各地で起こります。その一つが三島へのセルロイド製造工場誘致運動でした。

明治三十九年（一九〇六年）春ごろ、東京の起業家や横浜の外国人貿易商がセルロイド工場の設立を目指していました。

三島は設置場所として名乗りを上げ、町長などを中心に、資本金出資の約束や協定を結び、あとは東京方面の出資者募集、技術者や機器の準備をすれば開業できるころまで見通しが立ちました。しかし明治三十九年夏、事態は一変します。事業の中心人物だった外国人貿易商が設立準備のため海外渡航したまま音信不通となったのです。

三島の有志たちは東京や横浜



▲会社設立を目指して作成された定款

へ頻繁に出向き国内の関係者と協議し、国内関係者のみで会社設立を目指しますが、出資者を集められず、なかなか会社設立に至りません。原料となる台湾産樟脳の入手に不安があるとして財界の大物に協力を断られるなど、事業の見直しも立たない状況になりました。

誘致運動が始まってからほぼ一年後の明治四十年（一九〇七年）三月、三島町の関係者はセルロイド工場の誘致を断念しました。

翌年、財閥などが中心となって大規模なセルロイド工場が大阪、兵庫に設立されました。これ以降日本のセルロイド生産は順調に伸び、大正時代初めには輸出を行うまでに至りました。もし三島にセルロイド工場が設立されていたら、三島は日本の一大セルロイド産地となっていたかもしれません。

これらの詳細ないきさつは、三月末刊行予定の『三島市郷土資料館研究報告十』に掲載予定です。郷土資料館では毎年、職員や関係者による調査・研究成果を冊子にまとめています。展示と併せてご覧ください。

わたしの おじいちゃんおばあちゃん

当番 さいとう かのさん

私のおじいちゃんとおばあちゃん
は、いつも笑顔で、私を応援してく
れます。私は陸上をやっているので
学校が終わった後練習があります。
おばあちゃん、寒い冬の夜でも私
を練習に連れて行ってくれます。そ
して大会の時には、遠い場所でも来
てくれて大きな声で応援してくれま
す。辛いときは励ましてくれ、嬉し
い時には一緒に喜んでくれます。良
い結果を出して恩返ししたいです。
大好きなおじいちゃん、おばあ
ちゃんいつも応援ありがとう。これか
ら



古谷末廣(67歳) 古谷花子(67歳) 齋藤香乃(東小6年)

※齋藤さんは第18回しずおか市町対抗駅伝のメンバーに選出されています。詳しくは5ページをご覧ください。